

## オープン カレッジ

今年はオリンピック・パラリンピック競技大会(以下、オリ・パラ)が行われる年。場所はパリを中心としたフランスの広範囲で競技が実施される。パリ大会の前は東京大会であったが、新型コロナウィルス感染拡大により1年延期となり、基本的に無観戦での開催となつたことは記憶に新しい。

パリ大会のスローガンは「Games Wide Open(広く開かれた大会)」で、その実現のため、セレブレーション、レガシー、エンゲージメントの三

## パラリンピック教育

近年、オリ・パラ開催地では教育プログラムが実施されている。東京大会でも東京2020教育プログラム「ようい、どん!」が行われ、オリ・パラを通じたスポーツの価値、多様性に関する理解(障害者理解・国際理解)、主体的・積極的な参画プログラムなどが全国的に推進された。これにより児童・生徒の心に、自信と勇気、多様性の理解、主体的・積極的な社会参画とい

うレガシーを残すことができたとある。特にパラリンピック教育では子どもたちが学んだことを周囲の大人

に伝える「リバースエデュケーション」効果が期待され、共生社会を育む契機となつたと報告されている。

この柱を立てている。二つのレガシーは、東京大会同様に環境問題に配慮した持続可能な大会を目指して

## 継続的な学びを

### 共生社会の実現へ



日本福祉大学  
スポーツ科学部准教授  
安藤 佳代子

あんどう・かよこ 障害者スポーツ。中京大学大学院体育学研究科修士課程修了。

日本福祉大学がある愛知県美浜町では「美浜町パラリンピック教育」が18年から現在も継続的に実施されている。大学と教育委員会が連携し、毎年町内の小学4年生と中学1年生が座学と実技でパラリンピックについて学ぶ。その教材には国際パラリンピック委員会

26年には愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会が実施される。この大会を契機として社会が変わり、未来につながるレガシーを残せることを期待したい。この地域がインクルーシブな世界に近づけるよう、今後もパラリンピック教育を推進していく。

いることや、オリ・パラ選手が一つの選手団を結成し、同じ大会エンブレムを使用することなどが挙げられている。

東京2020教育プログラム「ようい、どん!」が行われ、オリ・パラを通じたスポーツの価値、多様性に関する理解(障害者理解・国際理解)、主体的・積極的な参画プログラムなどが全国的に推進された。これにより児童・生徒の心に、自信と勇気、多様性の理解、主体的・積極的な社会参画とい

うレガシーを残すことができたとある。特にパラリンピック教育では子どもたちが学んだことを周囲の大人

に伝える「リバースエデュケーション」効果が期待され、共生社会を育む契機となつたと報告されている。

パラリンピック教育は、パラスポーツを題材に障害の理解促進や共生社会の実現に向けた「気づき、考え実行する」力を育むことができる。またパラスポーツを体験して誰でも楽しめるスポーツだと理解でき、道具やルールの工夫から「どうしたらできるのか」考える力につながる。さまざまな学びがあるパラリンピック教育は、オリ・パラと同じ4年に一度ではなく継続的に学ぶことが重要ではないか。

26年には愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会が実施される。この大会を契機として社会が変わり、未来につながるレガシーを残せることを期待したい。この地域がインクルーシブな世界に近づけるよう、今後もパラリンピック教育を推進していく。